

2002年9月の情報です。

平成13年度大気汚染の状況について

I 大気汚染常時監視測定結果

神奈川県では、大気汚染の状況を科学的かつ的確に把握するため、大気汚染防止法の政令市である横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市及び相模原市と協力して、大気汚染物質である二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、二酸化硫黄及び一酸化炭素等の常時監視を行っている。

このたび、県内87地点の測定局(一般環境大気測定局57局・自動車排出ガス測定局30局)における平成13年度の測定結果がまとまったので、その概要を報告する。

1 測定結果の概要

(1) 一般環境大気測定局(57局:市街地、住宅地等の生活環境における大気を測定)

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素(NO ₂)	57局中 51局 (89.5%)	0.028ppm	環境基準適合率は、前年度(96.5%)と比べて低下しているが、過去2番目に高い適合率である。年平均値は平成11・12年度(0.027ppm)からほぼ横ばいの状態が続いている。
浮遊粒子状物質(SPM)	57局中 33局(注) (57.9%)	0.034mg/m ³	環境基準適合率は、前年度(71.9%)と比べて低下しているが、過去3番目に高い適合率である。年平均値は前年度(0.035mg/m ³)とほぼ横ばいの状態である。
光化学オキシダント(O _x)	56局中 0局	0.024ppm	環境基準は、全測定局で不適合であった。光化学スモッグ注意報の発令日数は13日(前年度は10日)であった。
二酸化硫黄(SO ₂)	56局中 56局(注)	0.006ppm	昭和55年度から全測定局で環境基準に適合している。年平均値は前年度(0.006ppm)と横ばいの状態である。
一酸化炭素(CO)	8局中 8局	0.6ppm	昭和48年度から全測定局で環境基準に適合し、年平均値も低い濃度で推移している。

注)長期的評価(P4浮遊粒子状物質の評価方法の欄とP7二酸化硫黄の環境基準の欄を参照)

(2) 自動車排出ガス測定局(30局:自動車の影響を受ける主要道路沿道の大気を測定)

物質	環境基準適合状況	年平均値	概況
二酸化窒素(NO ₂)	30局中 14局 (46.7%)	0.039ppm	環境基準適合率は、前年度(56.7%)と比べて低下しているが、最近10年の中では、3番目に高い適合率である。年平均値は前年度(0.038ppm)から0.001ppm上昇したが、ほぼ横ばいの状態が続いている。
浮遊粒子状物質(SPM)	30局中 8局(注) (26.7%)	0.044mg/m ³	環境基準適合率は、前年度(46.7%)と比べて低下しているが、過去3番目に高い適合率である。年平均値は前年度(0.046mg/m ³)とほぼ横ばいの状態である。
一酸化炭素(CO)	28局中 28局	1.0ppm	昭和57年度から全測定局で環境基準に適合し、年平均値も低い濃度で推移している。

注)長期的評価(P4浮遊粒子状物質の評価方法の欄を参照)